

Ⅲ. 設立趣意書

スマートプラットフォーム・フォーラム設立趣意書

概要

デジタルテクノロジーの進歩は、デバイスやコンピュータの使い方だけでなく、それに接する私たちのライフスタイルにも大きな影響を与えています。それは、スマートフォンやタブレット、そして4K・8Kテレビなどに代表される端末の変化、オープンデータ、ビッグデータ分析などのデータサイエンスによる科学のあり方の変化、さらに、デジタルファブリケーションによるモノづくりの変化、という形で発展が続きます。このようなデジタルテクノロジーによる共通部分を「メディアや創造のプラットフォーム」と位置づけ、発展に向けた課題解決の議論を進めて参りたいと考えております。

設立の趣旨

今日、教育や物販をはじめ、農業や漁業などの第一次産業、テレビやラジオなどの放送産業など、あらゆる産業の実体がデジタルコンテンツ化しています。その背景にはインターネットとそれを取り巻くデジタルテクノロジー、そして社会の進化がありました。

この進化によって、デジタルテクノロジーを利用する人の役割が大きく変化しました。インターネットが広く認知されるようになったのは1995年のことです。それ以前、すなわちB.I.(Before Internet)には、デジタルコンテンツは存在したものの、コンテンツの利用者はすべて消費者でした。消費者の役割は文字通り消費することであり、その対価を支払うことで産業が成立していました。一方、インターネット以降、すなわちA.I.(After Internet)には、YouTubeなどのCGM(Consumer Generated Media)と呼ばれるサービスによって、デジタルコンテンツの利用者の役割は、消費者だけでなく、生産者や発信者へと拡大していきます。さらに、生産者や発信者の役割がコンテンツを作成し発信することであるにも関わらず、必ずしもそれに対価が発生するとは限らない、そんな状況が生まれてきました。また、利用者は、同じ人物がその場の状況に応じて役割を変えていくマルチステークホルダーという考え方に代表されるような、発信者にも消費者にもなれる場に参加することに価値を見出していることから、場の提供者に直接的に対価を支払ったり、広告などの間接的な対価を得られる仕掛けを加えたりすることで産業が成立するようになってきています。

デジタルテクノロジーによって進化した社会全体が、このような共通したデジタルプラットフォームとして成立している以上、それを構成する技術とその役割をマイクロに議論するだけでなく、プラットフォームとしての発展を、レイヤーをまたがる課題として、マクロに議論し取り組むことが必要であります。そこで、本フォーラムでは、マイクロな視点での議論とマクロな視点で議論を相互に交換し、並行して行うことで、マルチステークホルダーのようなダイナミックな役割の変化にも追従し、自由なコンテンツ流通の進化を促すスマートなプラットフォームを目指して参ります。

平成25年12月2日
発起人代表 村井 純

スマートプラットフォーム・フォーラム発起人一覧

平成 26 年 1 月 7 日現在

| 種別 | 氏名 | 所属・役職 |
|-------|------|-------------------------------|
| 発起人代表 | 村井 純 | 慶應義塾大学環境情報学部長 教授 |
| 発起人 | 稲蔭正彦 | 慶應義塾大学メディア・デザイン研究科長 教授 |
| 同 | 遠藤 諭 | 株式会社角川アスキー総合研究所 取締役兼主席研究員 |
| 同 | 田中邦裕 | さくらインターネット株式会社 代表取締役社長 |
| 同 | 夏野 剛 | 慶慶應義塾大学政策・メディア研究科 特別招聘教授 |
| 同 | 南 政樹 | 慶應義塾大学 SFC 研究所 研究員 |
| 同 | 舟橋洋介 | 株式会社トマデジ 特別顧問 |
| 同 | 元橋圭哉 | 一般社団法人次世代放送推進フォーラム 事務局 |
| 同 | 飯野嘉郎 | 特定非営利活動法人ブロードバンド・アソシエーション事務局長 |